

(31) サツマイモ(カンショ)

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
黒斑病 (<i>Ceratocystis</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②本病に強い品種を栽培する。 強：農林1号</p> <p>③無病の種いもを用い、苗床の土は無病地の新土を使用する。</p> <p>④つるの切取りはできるだけ高切りとし、土壌に近いつるは避ける。</p> <p>⑤収穫時に選別を行い、罹病いもは貯蔵しない。</p> <p>⑥貯蔵前に7～10日間仮貯蔵し、呼吸熱の放散を図る。</p>	<p>①種いもの消毒を行う。 (例) チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）</p> <p>②苗の消毒を行う。 (例) チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20） チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤） ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p>
	<p>【参考事項】 苗は束ねて基部を温湯に浸す。 抵抗性弱：ベニアズマ 品種間差異は、ハリガネムシの嗜好性と関係が深いといわれている。 保菌種いも及び土壌中に残存した被害いも、被害茎などが伝染源となる。 消毒前に貯蔵穴の土を薄く削り取る。 ハリガネムシ、コガネムシ類の幼虫や野ネズミの食痕から感染し、発病することが多い。 貯蔵庫はホルマリン100倍液で消毒し、数時間密閉し、殺菌効果を高めるようにする。</p>	
黒あざ病 (<i>Monilochaetes</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②無病の種いもを用いる。</p> <p>③排水良好な畑を選び、高畝とする。</p> <p>④アルカリ性肥料を過用しない。</p>	登録農薬はない。
	<p>【参考事項】 排水不良地や、土壌がアルカリ性のとき発生しやすい。 伝染源は種いもが主である。</p>	
つる割病 (<i>Fusarium</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②無病の種いもを用いる。</p> <p>③土壌湿度に注意し、活着を良くする。</p> <p>④他の作物との輪作を行う。</p>	<p>①定植前に土壌消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど）</p> <p>②苗の消毒を行う。 (例) ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p>
	<p>【参考事項】 抵抗性弱：ベニコマチ 保菌種いもを通じて苗伝染する。 農薬による苗消毒では、苗の基部を切り戻してから浸漬する。</p>	
コガネムシ類	<p>①必要以上に有機物を施用しない。</p> <p>②マルチ栽培を行う。</p>	<p>①植付け前に土壌混和する。 (例) クロチアニジン粒剤（ダントツ粒剤）</p> <p>②発生初期に農薬を散布する。 (例) クロルピリホス粒剤（ダズバン粒剤）</p>
	<p>【参考事項】 アカビロウドコガネ、ヒメコガネ、ドウガネブイブイ、アオドウガネなどの幼虫が、いもを食害する。</p>	
イモキバガ (イモコガ)		<p>①発生初期に農薬を散布する。 (例) ペルメトリン乳剤（アディオソ乳剤） MEP乳剤（スミチオン乳剤）</p>
	<p>【参考事項】 苗床末期と夏から秋にかけて発生が多い。 幼虫は葉の裏面を内側に巻くか、隣接葉をつづり合わせこの中に潜み、葉を食害する。</p>	
エビガラスズメ		<p>①発生初期に農薬を散布する。 (例) フェンバレート・マラソン水和剤（ハクサップ水和剤）</p>
	<p>【参考事項】 幼虫が夜間に葉を食害する。 8月の発生が多い。 摂食量はナカジロシタバの約8倍である。農薬散布は夕方が良い。</p>	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ナカジロシタバ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) インドキサカルブ水和剤 (トルネードエースDF) ルフェスロン乳剤 (マッチ乳剤)
	【参考事項】 幼虫が葉を食害する。 苗床期と9月の発生が多い。	
ハスモンヨトウ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) エマメクチン安息香酸塩乳剤 (アフアーム乳剤) ルフェスロン乳剤 (マッチ乳剤)
	【参考事項】 被害は、春から夏は比較的少なく、9月以降に多くなる。ナカジロシタバと混発する場合が多い。	
センチュウ類	①常発地では、連作を避け抵抗性品種を選んで栽培する。	①定植前に土壤に処理する。 (例) クロルピクリンくん蒸剤 (クロールピクリンなど) ダゾメット粉粒剤 (バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤) (ネコブセンチュウ) ②植付け前に粒剤を土壤混和する。 (例) カズサホスマイクロカプセル剤 (ラグビーMC粒剤) (ネコブセンチュウ) フルオピラム粒剤 (ネマクリーン粒剤、ビーラム粒剤) (ネコブセンチュウ)